

## 106) 弁当

こんな小生でありますから、我が家はどいつもこいつもみんな慌て者なのであります。小生がまだ中学生だった頃、当時は小学校は学校給食で、中学になると弁当だったのですが、昼飯になって弁当を開けると、何と、ナンにも入ってない。つまり我が垂乳根は空の弁当箱を後生大事に学校まで持参させたわけでありまして。そういえば今朝の弁当は軽いなーと思っていたのですが、まさか母が空の弁当箱を持って行かせるなんて、思っていなかったから疑いもしなかったのであります。仕方なくみんなから少しずつ分けてもらったのですが、美代ちゃんの弁当が一番おいしかった。そのことを美代ちゃんに言うと、ある日美代ちゃんのお母さんからお声がかかって、食事をしに来なさいと言うのであります。当時憧れの美代ちゃんだったから、喜び勇んで美代ちゃんの家に行ったところまでは良かったのであります。あまり緊張しすぎて、食べ物が喉を通らなかったものであります。その上『ご馳走様でした』と、ちゃんと言えよ良かったのに、どこでどう間違えたのか、お相撲さんみたいに『ゴツアンでした』と言ってしまったから、もう次に招待されることはなかったのであります。当時相撲が流行っていて、小生は学校で一番強かったから、調子に乗って、横綱気取りになっていたものであります。美代ちゃんのお母さんはきっと嫌なガキと思ったのだらうと悔やまれるのであります。